

# Suoni dal Golfo—Festival di musica e poesia



レリチのヨットハーバー。左手海沿いに並ぶ5軒目の家がシェリーのヴィラ。(©加来洋子)



レリチ市長から名誉市民賞を贈られたマルチアーノ (©Maxim Novikov)



2週間に亘ったフェスティバルを大成功で終えたマルチアーノを囲むメンバーたち (©Maxim Novikov)



初めて一般公開された詩人シェリーのヴィラで開かれたマリア・ミハイロヴスカヤのハープのリサイタル (©Maxim Novikov)

観客は真夜中過ぎまで「わが町の生んだマエストロ」に熱心に聴きほれていた。

ジャンルッカ・マルチアーノ(1976年イタリア生まれ)はひと時もじっとしていない。次々と新しいプロジェクトを生み出すエネルギーの塊のような指揮者だ。彼は8月25日から9月8日までの間に生まれ故郷のレリチで新しい音楽祭を発足させた。

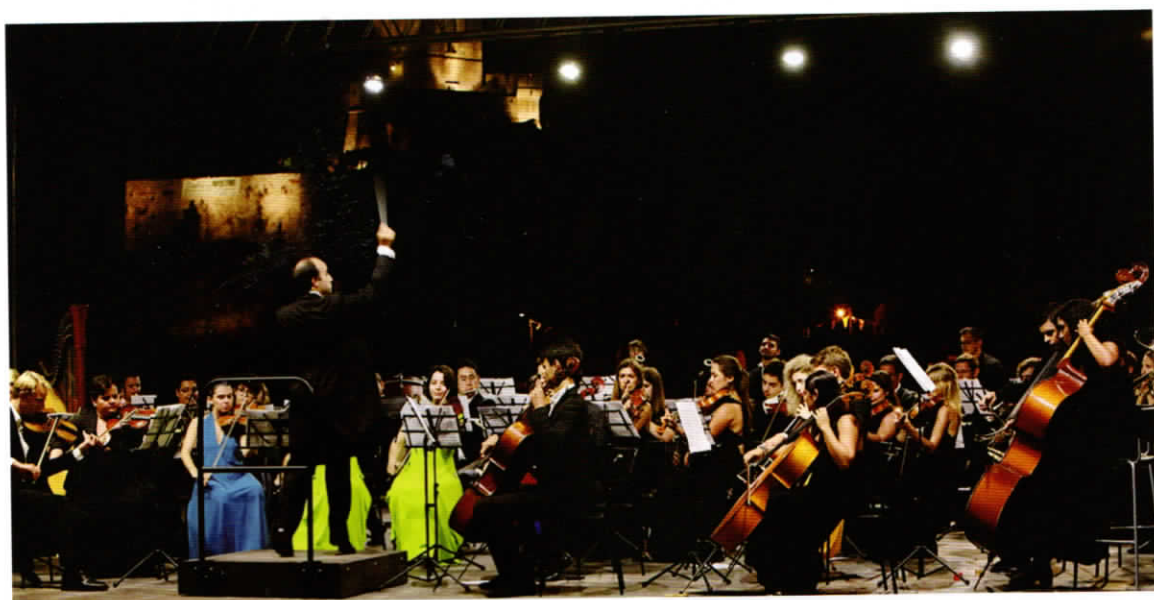
2007年にクロアチア国立劇場でデビュー以来、めきめきと頭角を現し、イギリスではイングリッシュ・ナショナル・オペラの他にカントリハウス・オペラの常連だし、ベイルートのアール・ブスタン音楽祭音楽監督を務めている。東京ニューシテイ管弦楽団との関係も深い。レリチは斜塔で有名なピサから車で1時間ほど海沿いに北上した風光明媚なリゾート地で「詩人たちの湾」と呼ばれている。29歳で亡くなった19世紀の有名なロマンチック詩人シェリーはイタリアをこよ

なく愛し、レリチに居を構えた。シェリーの友人で情熱の詩人バイロンはレリチに近い崖壁で詩作をしたという。この町にはシェリーとバイロンの名をつけたホテルもある。音楽祭のために新しく編成されたオーケストラ・エクセレンスは40か国150人の応募者の中から選ばれた55人の若者たちである。会場の一つとなったサン・フランシスコ教会では、マルチアーノと共に

芸術監督を務めるヴィオラのマキシム・ノヴィコフ(モスクワ生まれ、師はバシユメット)のソロでペルリオーズの「イタリアのハロルド」が演奏された。この曲はバイロンの長編詩「チャイルド・ハロルドの巡礼」から着想されたものである。白亜のシェリーの家が音楽祭のために初めて一般公開され、ハーブのリサイタルがあった。最終日はシェリーの家の前の砂浜に特設舞台が作られ、最初にイタリア海軍吹奏楽団がイタリア国家演奏。レリチ市長からマルチアーノに名誉市民賞が贈られた。満月が登り、ライトアップされたレリチの古城を見ながら演奏されたのはメンデルスゾーンの「フィンガルの洞窟」とリムスキー・コルサコフの「シェエラザード」であった。砂浜を埋め尽くした

# 「入り江の調べ」 —音楽と詩のフェスティバル

8月25日～9月5日、サンフランシスコ教会、ほか 文——加来洋子 写真——Maxim Novikov、加来洋子



「詩人たちの入り江」で古城を背景にフェスティバル最後の指揮を執るマルチアーノ (©Maxim Novikov)